

TFI デイリー・ニュース

世界を変える人達のためのワールド・ニュース

2012年

6月9日

紅海に沈む戦車

WND、2012年6月7日、ジョー・コバックス著

9年前に、古代の戦車の車輪とみられる遺物が紅海の海底で発見されたという、世界を驚かせるニュースがあったが、それを裏付ける「反論の余地がない証拠」を主張する新たなビデオが発表されたことによって、その発見は突然、新たな注目を集めている。

2003年6月、WNDは紅海に潜った聖書愛好家らに聞き取り調査を行っていた。彼らは、聖書の出エジプト記に記されている、イスラエル人を追って海に入ったエジプト軍にもたらされた大災害からの遺跡と思える、戦車の一部を発見し、写真に収めたと主張している。

アカバ湾で2度の潜水調査を行ったイギリス、ブリストル市ケインシャムのフォークリフト整備士ピーター・エルマー氏は、「戦車の車輪を発見したことは99.9パーセント間違いありません。それらは珊瑚で覆われていました。」と語った。

WNDの取材でエルマー氏は、海底のジャンクヤードで水没したものを探検していた時のことを、こう語った。「私は実際に、古代の戦車の運転席に座りました。それが古代エジプト軍の遺物であることは、疑いの余地もありません。」

ヘブライ人のルーツを持つ教師マイケル・ルード氏は、エルマー氏の発見が正真正銘の事実であることを裏付けるビデオを制作した。

「紅海を渡る」と題されたこのDVDは、エジプトのヌウェイバと現在のサウジアラビアを結ぶ海底の橋梁を探索した、米国内外の多くの研究者の調査記録である。

「葦の海の下に散乱している遺物の発見は、宗教界と科学界を震撼させました。遠隔操作の潜水艦に搭載されたカメラが、葦の海の底に戦場の残骸のように散乱している、珊瑚に覆われた戦車の部品や、馬や人間の遺骸をはっきりと捉えたのです。」とルード氏は言う。

ルード氏は、「紅海」と言う代わりに、「葦の海」という言葉を使っている。(訳注:

聖書協会共同訳聖書と新共同訳聖書では、「紅海」の代わりに「葦の海」という言葉が使われています。)それは、聖書に書かれている「yam suph」という言葉の直訳だからだ。それは、古代イスラエル人が乾いた土地を渡れるように神が奇跡的に^{ひら}開いた^{すいいき}水域を意味し、彼らの後を追ってきたエジプト人達は、そこでおぼれ死んだ。

ルード氏は、戦車の車輪だと主張する様々な円形の遺物を見せながら、「^{しろウト}素人でも、これが自然の珊瑚が形成する形ではないことはすぐに分かります。」と語る。中には、^{しゃじく}車軸がそのまま残っているものもある。

ルード氏が特に注目したのは、4本のスポークが取り付けられた^{きんぼ}金張りの車輪で、写真に収められた後は、近くにマーカーブイを設置して埋められた。

「珊瑚は金や銀には付かないので、この貴重な標本は、年月が経過しても^{れっか}劣化せずに残ったのです。これは、実際にファラオが死ぬまで乗っていた戦車の、2つの車輪の1つである強力な証拠です。」とルード氏は語った。

ルード氏はまた、この出来事を記している巨大な柱が、渡った海の両側で発見されていると説明した。1本は、アメリカの考古学者ロン・ワイアット氏によって、エジプトの海岸で^{しんじやく}浸食されているものが発見された。その後、もう1本がアラビア側で発見され、「読み取れる古代の^{ひぶん}ヘブライ語の碑文」が残っていた。

ルード氏は、2本目の柱には、ファラオ、死、エジプト、ソロモン王、そして神の聖なる名前であるヤハウエを意味する文字が記されていたと言う。

「歴史上最も賢かったとされるソロモン王は、500年前にイスラエル民族がエジプトを脱出するために通った正確なルートを知っており、彼らが葦の海を渡った地点に記念の柱を建てたのです。」とルード氏は言う。

ルード氏はまた、水深は深いため、ヌウェイバの浅い橋梁以外、横断できる地点は他にないと言う。

「たとえ水がなくなったとしても、アリゾナ州のグランドキャニオンのように深い峡谷を渡ることは不可能だったでしょう。」と、ルード氏は言う。

「しかし、イスラエル人達が宿営していた海辺では、海底の橋梁が^{ゆる}緩やかな6度の^{けいしゃ}傾斜で形成されており、水深900フィートほどで水平になった後、徐々に上り^{のぼ}傾斜になってミディアン^{せいがん}の西岸に達するのです。」とルード氏は付け加えた。

(訳注：参考のために、この橋梁になった地形を図解している非常に興味深い資料があったので、添付します。是非見てみて下さい。→「アカバ湾の不思議な海底」)

今月のみことば 2016年5月

「あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。」

(詩篇16篇11節)

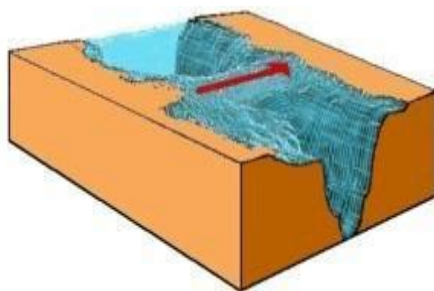
アカバ湾の不思議な海底

紀元前 1450 年頃、モーセに率いられたイスラエルの民は長い奴隷生活に終止符を打ち、エジプトを脱出したものの、たちまち危機に見舞われる。イスラエルを去らせたことを後悔したエジプトの王、パロが最精鋭の軍隊を出动させ追いかけてきたのである。

よく知られているように、モーセの祈りに応えて、神は紅海を二つに分け、民はまるで陸地を歩くように対岸まで歩くことができた。これは、エジプトの沼地でもなく、また浅瀬でもなく、水深 1,500 メートルのアカバ湾であることを、スウェーデンのカロリンスカ研究所のレナート・モーラー博士率いる国際チームが明らかにした。海底からはエジプト第 18 王朝の戦車の車輪を閉じ込めた形の珊瑚が無数に発見されており、反論はほぼ不可能である。



イスラエルの民が渡った部分は、橋梁のようになっていて水深は 100 メートルほどだという。神は吊橋のようにゆるやかに対岸とむすぶ海底の「橋」の上の水をどけられ、壁のようにそそり立たせたのである。しかし、エジプト軍が同じように渡ろうとしたところ、一挙に海の水が元に戻り、すべてが呑み込まれてしまった。一瞬にして世界最強の軍隊が全滅した、と聖書は記す。



さて、ここで考えてみたいのは、海底がいつそのような形状になったか、である。もちろん、それは出エジプトが起きるはるか以前のことであり、神が地と海を造られた時にさかのぼることは言うまでもない。

であるからこそ、神は、「イスラエル人に、引き返すように言え。そしてミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない」(出エジプト 14:2) とモーセに言われたのである。その地点こそ、対岸のアラビア半島に渡るために神があらかじめ用意された海底の道の出発点であったからである。

海底を探索したところ、それは足が沈むことのないように、引き締まった砂で固められた広々としたなだらかな道で、海水がなければ、だれでも容易に歩ける道である、とモーラー博士は言う。

新学期が始まった。私たちにも困難の海が目の前に立ちはだかるかもしれないが、慌てずに神の導きを待とう。私たちの目には見えなくても、神が用意された安全で確かな道が隠れているはずである。